

かわら版
おけがわ
はたご
旅籠
ふれあい庁舎
Vol.3

新庁舎基本設計も中盤にさしかかり、本格的なプラン検討に入りました。並行して行われている市民ワークショップは、12/7(日)に、第3回目が開催され、全3回が終了しました。

今後は、ワークショップでいただいたご意見を参考にしながら、プラン検討を進め、2月の市民説明会・パブリックコメントに向け、「基本設計(案)」をまとめていく予定です。

今回のかわら版は、第3回目のワークショップの報告、全3回のワークショップのまとめ、及び、今後の設計の課題についてご報告します。

第3回市民ワークショップ

12月7日(日)9:30~12:00 保健センター3階講習室 グループ会議「桶川らしさ」

12月7日、3回目のワークショップを行いました。9:30から保健センター3階の講習室で行い、参加者は、事務局、スタッフも含め37人でした。



ワークショップに先駆け、野川副市長より挨拶。

前回の要望に対する回答、進め方についての説明の後、日本設計より今回のテーマである「桶川らしさ」について、設計者の考えを説明しました。

前回同様、「グループ会議」。4つのグループに別れ、リーダーを中心にスタート。付箋と図面を使い意見交換を行いました。

「桶川らしさ」というテーマについて、各グループとも活発な意見交換が行われ、たくさんの意見が図面に貼られました。あらためて「桶川らしさ」について考えるよい機会になったとの意見もありました。

各グループ意見をまとめ、サブリーダーが発表、最終回ということでリーダーからも一言挨拶、最後はファシリテーターの作山教授に締めをいただきました。

副市長の挨拶をもって、3回に渡って行われた市民ワークショップが終了しました。

参加者の皆さん、大変お疲れ様でした。

「桶川らしさ」について発表された意見

機能

- ・庁舎機能と情報発信機能を分離したかたち、庁舎側は機能性の徹底を。
- ・あまり様々な機能を詰め込み過ぎず、必要なサービスを必要なだけ入れる。

かたち

- ・昔の旅籠のイメージだけでなく若者へ魅力を伝えられる様、今・これからの桶川らしさを。
- ・格子や片流れの屋根。
- ・桶川らしい道からの見え方は残したい。

場所

- ・庁舎に用事がなくても行きたい場所に。
- ・桶川の文化や伝統芸能を表現したり、発表ができるような土間などの場所。
- ・お祭り等のイベントのできるスペース。
- ・サークル(高齢者)の方々が使えるスペース。

継承

- ・本陣のイメージや歴史的価値の活用。
- ・中山道の宿場町を継承した旅籠のかたち。

色

- ・ベニバナのオレンジが明るく元気が出る色なので、シンボルカラーに。
- ・フロア毎に色分けするだけでなく、サイン計画と合わせたユニバーサルデザインを。

材料

- ・市民が長く居る場所に良い素材を。
- ・土間部分に土に見えるようなコンクリート。
- ・西川材などの県産材を使って地産地消。
- ・木材利用にあたっては構造面での安全性・耐久性を十分に保つ。
- ・ベニバナ染めをインテリアに使用。

植栽

- ・長期的な維持管理を考慮した植栽計画(大きくなり過ぎないようにする、枯れ葉、ムクドリ等)。
- ・ベニバナだけでなく季節による花、農産物も。

情報発信・PR

- ・市民が桶川を知ることができるように。
- ・桶川の象徴として今と昔をPR。
- ・オケちゃんPR。
- ・ベニバナの生産の奨励。
- ・ベニバナの商品化(染め、食品)。

その他

- ・桶川のお食事を提供するカフェ、カフェの運営。
- ・富士山が見える。
- ・メンテナンスを考慮しつつ、間接照明等の導入。
- ・地の利を生かす陸(圏央道)、海(荒川)、空(ホンダエアポート)。



市民説明会のご案内

基本設計(案)についてご説明します。ぜひご参加ください。

平成27年2月1日(日)

9:30~11:30 社会福祉協議会
13:30~15:30 市役所分庁舎

<発行> 桶川市総務部新庁舎建設推進課

<編集協力> 株式会社 日本設計

<お問い合わせ・事務局> TEL: (048) 786-3211 FAX: (048) 787-5409

E-mail: chosha@city.kegawa.lg.jp

※この「かわら版」は、新庁舎建設推進課、市民課ロビー、東部連絡所、駅西口連絡所、川田谷公民館で配布しています。また、ホームページで閲覧できます。

全3回のワークショップのまとめ

第1回「新庁舎に求めること」

「安心できる」庁舎

- ①ユニバーサルデザイン、誰にでも優しいデザイン
- ②防災拠点としての機能確保

「使いやすい」庁舎

- ①市民、職員両方が使いやすい庁舎
- ②多目的に利用できるスペースの設置
- ③議場の多目的利用

「環境に配慮した」庁舎

- ①複合的なエネルギー利用
- ②緑化計画の精査
- ③周辺環境の活用

その他

- ①建設コストへの配慮
- ②市民コミュニティ施設の充実
- ③より多くの市民の声の反映

第2回「市民のスペース」

窓口廻り

- ①ワンストップサービスによる窓口
- ②プライバシーに配慮した相談室
- ③休憩できるスペースのある窓口

会議室廻り

- ①市民利用可能な会議室
- ②多目的に利用可能な会議室
- ③使いやすい設備のある会議室(移動間仕切、プロジェクター等)

市民ゾーン廻り

- ①ミニコンサートやイベント可能なスペース
- ②桶川のPRコーナーのスペース
- ③カフェ、コミュニティFMの有効活用

その他

- ①市民利用できる議場
- ②安全な駐車場(出入口)
- ③駐輪場の有効利用

第3回「桶川らしさ」

かたち

- ①桶川の歴史を継承した宿場町・旅籠のデザイン
- ②通りからの見え方への配慮(シンボル性等)

場所

- ①桶川の文化や伝統芸能を表現したり、発表ができるような場所
- ②イベント、サークル活動ができる場所

色・材料・植栽など

- ①桶川らしい明るいシンボルカラー
- ②地域の材料(木材、ベニばな)の活用
- ③季節による花、農産物の活用

その他

- ①情報発信できる庁舎
- ②富士山の眺望
- ③間接照明等の導入

ワークショップを参考とした上での設計の課題

会議室

市民利用可能な配置、移動間仕切設置等、より多目的に、より効果的に使用できる会議室の充実に努めます。

植栽・屋上緑化

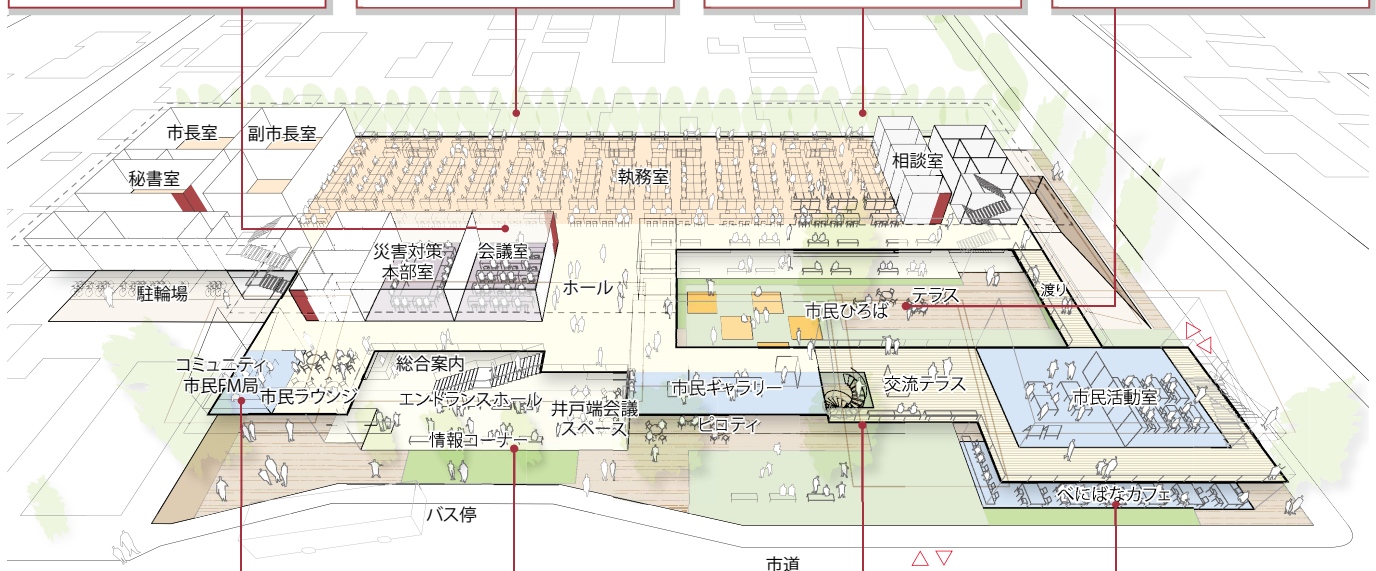
桶川らしい樹種の選定をしながら、気候や維持管理(樹高、枯葉等)に配慮した植栽計画を検討します。

議会

市民利用可能範囲の設定とそれに合わせた仕様(議場の床等)の仕様を整理します。

ひろば

駐車場としての安全性を確保しながら、多目的に利用でき、桶川らしさを感じられるひろばとなる検討をします。



コミュニティFM局

運用や費用対効果を含め、効果的な設置の方法について検討します。

市民利用ゾーン

それぞれの室(市民活動室、市民ギャラリー、情報コーナー、井戸端会議スペース等)にあった使い方について整理します。

宿場町・旅籠

桶川の歴史を継承したかたちとしながら、未来につながるような新しい要素を取り入れたものにしていきます。

カフェ

利用形態(カフェ、コンビニスタイル等)や運用等、費用対効果も含め、全面的に検討を行います。